

高速バスのフルフラット座席等の安全対策の検討について

1. 背景

- これまで座席のリクライニングについては、自動車メーカーより、長距離バス等では、大型車の座席の国連協定規則（UN-R80）を参考に各種障害値の値やサブマリン現象が起きないことを確認し、その結果として座席の最大リクライニング角度は143度までの設定としているとの報告を受けている。
- 一方で、移動が長時間に渡る高速バスでは、乗客が車内で快適に過ごせるよう、フルフラットになる座席や深いリクライニング角度の設定を可能とした座席が開発されているとともに、一部使用が開始されている。

2. 対応案

- 国内状況の調査や衝突試験等を踏まえ、高速バスに備えられるフルフラット座席や深くリクライニングする座席において考慮すべき安全対策を検討し、ガイドラインとして公表することにより、安全を確保した同種の座席が開発・提供されることを促す。

3. スケジュール案

- ～2024年8月：研究機関による衝突試験・検証
- ～10月：試験・検証結果の分析とガイドライン案策定作業
- ～11月：車両安全対策検討会での審議・ガイドライン策定